

ある日曜日、Iの家に友人Nが遊びに来ていた。ちびまるちゃんが進んでたく終わり、次はサザエさんという時に、めでたくない事件が勃発……。

パンツパンツと、外から尋常ではない音が聞こえてきたのだ。「何？今の音!?」。コロビ寝を始めていたIは目を覚まし、テレビに釘付けだったNも目を離し、二人は顔を見合わせた。窓を開け外を見回したが、火花をしている様子もない。「火花にしては（音が）大きすぎるでしょ?」「じゃあ何?」「もしかして発砲事件!」。

### 初の110番 「もしや発砲」事件の教訓

恐怖に襲われた二人が下した決断は警察への通報だ。初めての110番緊急電話なのに、なかなか繋がらない。「はい、〇〇警察署です。どうしました?」。やつとのことで電話に出た警察官に、Iは事の次第を早口でまくしたてた。「では近くの警察がIさんの家に行きますので待っていて下さい」と電話は切れた。

逆に滅多にないシチュエーションに二人はワクワクし始めていた。数分後、Iの携帯電話が鳴り、再び部屋に緊迫した空気が流れる。「もしもし、H警察署ですけど。あの大きい音ね、私も聞いてたんだけど、あれ火花だから」「はい?」「近くにM高校ってあるでしょ?あそこが文化祭終了の合図に、毎年火花あげてるんですよ。知らない?」「はあ…銃声かと思いましたが」「銃声はもつと凄い音がしますよ（笑）」「そうなんですか??:?けどほかに通報した人とかかっていないんですか?」「Iさんだけですわね」「ああ、そうですか?」

「ま、そういうことなんで家には行きませんかね?」「:はい、分かりました」  
全くもって拍子抜け。まあ無事だったからよかったのであるが…。  
「あの音で通報しないなんて、みんな平和ボケしてんじゃないの?」と口を尖らすIの意見も一理あるだろう。疑いながら生きるの悲しいことだけど、疑うことを忘れないように。発砲?事件から得た教訓である。

(夏)



「や」つぱりクリスマスは、彼とドライブして夜景が見られたら最高よね」。こんな会話からほら出てくる季節。「まずはカタチからよね!」と、E子は彼氏取得の前に免許取得をすることにした。話は過ぐる夏休み……。

E子は短期合宿コースを選んだ。初日、アクセルとブレーキ、ハンドル回しと全身の筋肉を使ったためにすぐに筋肉痛が発生したものだ。また、そこで偶然にも中学の同級生に約4年ぶりに再会したため精神的にも変なダメー

ジが。帰宅してすぐベッドで大の字になって寝たい気分である。心身の痛みが消えかけたころ、スリル満点の高速自動車教習に突入した。教習所には外車ボルボ（推定500万円）があり、運が良いと乗ることができ、なんともリッチかつセレブな気分を味わうことができる。ラッキーなことにE子はそのボルボで、宇都宮方面に向かっ

### やつぱりXマスは… 一夏の合宿・免許証取得

先生の話題は今流行の「冬ソナ」。先生の話題はなぜヨソ様ファン?」とか言っ

お気楽なものである。最初は嫌々だった教習も、あつという間の2週間。終わりのころは、もう会わないだろう友達との別れがとても切なくて。毎日送迎してくれたバスの運転手のおじさんの顔、バスの中で今日一日あった出来事をワイワイ話し合った友達、食堂で食べたデザートまでもが。

当日はあいにくの雨。ただでさえ怖いのに、悲惨な高速教習生である。緊張する彼女をよそに、

(花)

フ  
アーストコンタクトは中大  
だった。最初はその黒々と光  
る背中を見て、カブトムシだと思っ  
た。しかし、周りからあがった悲鳴  
でようやくそれをゴキブリだと認識  
できたのだ。

そんな文学部1年M君は北海道・  
札幌市の出身。そう、ゴキブリのい  
ない地域出身だ。大学進学を機に上  
京することで新たな世界が拓けるだ  
ろうと思っていたが、まさか新しい  
恐怖の扉まで開けることになろうと  
は……想像もしていなかったと彼は  
語る。

あれは今年の夏。家賃5万2千円  
のアパートで、さて風呂でも入ろう  
かと服を脱いでいた時、視界の片隅  
を何か黒いものが横切った。

「ん？」  
何気なく振り向いた彼の目に映っ  
たのは、背中は艶々・足はワサワサ  
とした、それは立派なゴキブリだった。

「……………」  
息が一瞬止まり、悲鳴も出せな  
かった。早く退治せねば。だが、家

にゴキブリが出るとい  
う概念自体がなかった彼  
の家に撃退グッズは何も  
ない。脱ぎかけたパンツ  
をずりあげ、ひとまずそばにあっ  
たバスマジックリンをかける。ブ  
シユツ！……するとひっくり返って  
息絶えた。恐ろしかったのでよくは  
見られなかったが、彼は何とか割り  
箸でつかんで、ゴキちゃんをゴミ袋  
に葬った。

その時の彼は  
自分の家でゴキ  
ブリと遭遇した  
ことの驚きが勝っていて、どうやっ  
て駆除すればいいかを考える余裕は  
なかった。

とにかく、まだゴキブリがどこか  
にいるのではないかという恐怖が先  
走り、バスタイムはおろか、部屋に  
いても落ち着かない日々を送るはめ  
になったのだった。

2日後、思い余って大学で友人に  
助けを求めると、東京都民の彼はこ  
ともなげに「バルサンを焚け」と言っ



た。バルサンは、煙でゴ  
キブリを退治するお馴染  
みの撃退グッズ。さつそ  
くM君はその夜、バルサ  
ン作戦を実行に移した。フタをとっ  
てこすると煙が出る。モクモク。

「おお、いいぞ！」と彼が思った  
のもつかの間。「何だ？ 目にしみ  
る……」。涙まで出る。これはたま  
らんと外に飛び出し、友人宅に非難  
したM君だが「説明書を読め！」と、

**壮絶な死闘！**  
**敵は黒いアイツ**  
さんざんバカ  
にされてし  
まったのだった。

しかし、これでゴキブリを殲滅で  
きたらうと、スキップで帰宅した  
彼の目に飛び込んできたのは、これ  
また立派なゴキブリがよろよろと歩  
く姿だった。

そう、バルサンはたしかに効くが、  
一気にゴキ殲滅！とはいかず、瀕死  
のゴキブリが物陰から出てきたり、  
隙間から出てきて息絶えたゴキちゃ  
んとご対面したりすることもあるの  
だ。M君がそれを、身をもって学ん

だのは、説明書未読のため、カバ  
をかけておかなかった布団や食器の  
後片付けをしながらであった……。

定期的なバルサン効果か、幸い部  
屋ではゴキブリを見かけなくなつた  
が、M君のオビエの傷は深い。ゴキ  
ブリホイホイ&ホウ酸だんご&コッ  
クローチSも常備して、これでもう  
怖いものなしだと言いつつ、ホイホ  
イをのぞく時は相変わらず手が震え  
てしまうM君であった……。

余談だが、彼がいま一番楽しみに  
しているのは、ゴキブリがいない故  
郷・北海道への帰省。「何の不安も  
なくのびのびしたい！」そうだ。だ  
が近年、札幌の地下街などではゴキ  
ブリの目撃談もいくつもあり、しか  
し「ゴキブリはいない」という前提  
のため、北海道のお店には、ホイホ  
イなどのゴキブリ撃退グッズが売ら  
れていない。札幌のM君の実家のマ  
ンションでも、最近見なれない虫が  
目撃されたことを、M君はまだ知ら  
ない。

(鬼)

# 女

優の奥菜恵のダンナの会社、といえはわかるだろうか。渋谷マークシティウエストの21階に本社を持つサイバーエージェント。国内売上高No.1のインターネット専門広告代理店であると同時に、数多くの生活者をユーザーとして抱えるインターネットメディア企業だ。インターネット広告代理事業では、

広告主の投資対効果を極大化させる自社媒体及び他社媒体での広告展開及びクリエイティブ制作を提供、インターネットメディア事業では、自社の開発・運営・制作を行ない、生活者の嗜好にあつた情報提供及びオンラインショッピング等を提供している。

今夏、そんな会社にちっこいけれどパワフルな娘がインターンシップで乗り込んだ。

小宮山貴恵さん（経済学部国際経済学科3年）。関東には珍しいツツコミキャラ、である。

「就職前に社会の感じをつかみたかったし、自分がやっていけるかどうか試したかった。あと、はやつて

る会社がどんなことをしているのかわかりたかった」

ネットでエントリーシートを送信し、会社説明を行う「1DAYセミナー」に参加。20倍の面接だったが見事合格を果たした。面接に受かったのは17人、男女比は3対2。慶応や青学が多かつ

たらしい。中には新宿駅徒歩圏内のマンションに住み、投資でもう

けて、自腹で生活しているツワモノの東大の院生もいたとか。さらにサイバーの社員は「みんな

かっこよかつたし、かわいかつた!」らしい。サイバーは20代と30代しかない若い会社である。

デザイナーはおしゃれで、営業するひとは自分の見せ方をわかつてる、とのこと。

インターンシップ期間は8月中旬から末にかけ

ての2週間。13時から17時の予定だったのだが、実際は「朝の10時から出社して、終電で帰っていた」そう。前半の1週間、午前はインターネット広告ビジネスや関連会社の社長のサクセスストーリーといった講義を

聴講した。話題のライブドア、堀江社長やソフトバンクの孫社長の講義もあつた。後半

は学生が営業と企画のそれぞれ

の社員につき、共に行動。2週間ずつと継続して行っていたことは5人1チームでビジネスプランを手がける

こと。

お題は「学生向けのサイトを立ち上げる」だった。5人とも初めてのビジネスプラン作り。でも、

「ホントに立ち上げるつもりでやつた!」ら、社長から「アイデアがおもしろい!」とお褒めの言葉をいただいた。

「就活のポータルサイトを

トを作ろうとしたんだけど、他のサイトと差別化が難かつた。でも、ロゴマークを外部に依頼したり、関連会社に足をはこんでプレゼンしたりしてがんばつたのよ」

後半の1週間はグループメンバー5人ともそれぞれ社員について社外にでているので、ミーティングは22時以降だった。

「やせだし、やつれた。食事も不規則」。それでもインターンを経験したことに對して、「200パーセント満足してる、すごい楽しかつた」という。

「インターン行く前は、自分が就活に早く取り組んでて安心感があつたんだけど、行つたら上手がいつぱいいいた。中大とのギャップを真つ先に感じたナ」

11月を過ぎてから。3年生は就活を始めている。インターンでよりパワーアップした彼女も、これから就職戦線に向かおうとしている。

(菫)



## 堀江孫社長の講義も パワフル娘の1T研修奮闘記